

J A全農ET研究所ニュース 平成27年10月号（特別号）

2015年9月19-20日開催の北海道ホルスタインナショナルショウにて豊富町佐藤さん所有の14歳のレスポアール レーガンスター ハーゲン号がグランドチャンピオンを獲得！！！！

佐藤信夫さん、道寛さんグランドチャンピオン獲得おめでとうございます。

今までの乳牛共進会の歴史の中で、このような高齢牛が成牛部門（第15部）に参加することはありませんでした。道北地区予選を乗り越えて参加しただけでも脅威なことですが、15部1位と、シニアチャンピオンかつグランドチャンピオンにも輝きました。奇跡とも言えるこの快挙に、決定の瞬間、会場内に拍手が沸き起こりました。審査したカナダのカラム マッキンベン氏も人間で言えば100歳に相当するこの牛がこのようすばらしい姿でここにいることが信じられないと述べていました。

本牛、レスポアール レーガンスター ハーゲン号は若かりしころから7回全道共進会に参加し、平成18年と19年には連続してグランドチャンピオンに輝いており、今回3回目の受賞となることも驚きに値します。

本牛は11歳時の平成24年5月に当方の十勝にある全農ET研究所に預けられ、過剰排卵による採卵を実施し、1回の採卵で29個の正常卵を回収、6個の受精卵性判別をランプ法にて実施し、3個の雌胚をETし3頭の受胎牛を得ることができました。そのうちの1頭は今回8部のジュニア2歳クラスにも出品されていました。

その後、ドナー本牛を当方で受胎させ平成25年7月に豊富にお返ししましたが、残念なことに妊娠中期で流産してしまいました。

本牛もすでに高齢なため、普通であればここで話は終わるのですが、佐藤信夫さんたちの信念と諦めない気持ちにはただただ驚かされます。平成26年5月に信夫さん本人がトラックでレーガンスター本牛を積んで全農ET研究所までこられて「この牛に日本最高得点（その時点で本牛95点）である96点を取らしてあげたい、本牛を見る限り、その可能性はあり、決して諦めたくないの、何がなんでも本牛を受胎させてほしい」と強く要望されました。

本牛はその時すでに13歳でしたので、当方の不妊対策用繁殖プランを実行し、子宮洗浄から始まって、発情誘起プログラム、チルド保存精液による人工授精かつ1週間後にチルド保存精液で作出したF1体内チルド卵の追い移植を実施し、すんなりと受胎しました。その後、数回の妊娠鑑定を行い、単一の胎仔が確認でき、流産もなく妊娠を継続し、その年の10月に豊富に帰り、平成27年4月20日に正常分娩し、今回のエントリーとなりました。

多くの酪農家の方々はもとより、我々みたいな繁殖技術の専門家にも佐藤さんご一家から「決して夢を諦めてはいけない」ということを目の前で教えていただいた気がしております。

文責（青柳）



グランドチャンピオン：レスポアール レーガンスター ハーゲン号



8部：レスポアール ファーストウインド ハーゲン ET号